



久保氏がまずお話されたのは日本山岳会との繋がりです。ご自身は会員ではないが、息子の匠哉さんは（なるやさん。田淵行男<以下田淵氏と表記>の山の三部作「山の意匠」から一文字を取ったとのこと）日本山岳会に30年近く在籍していたそうだ。田淵家と家同士の付き合いもあり、小さい時から田淵氏に連れられて北アルプスの山に登り山小屋に泊まっていたという。孫のように可愛がってくれた、そんな縁から田淵氏の紹介で山田二郎会長の時に入会したとのことだ。今は自営業で忙しく、退会されたという。息子さんの宝物である山岳会の著名人のサインが収まったサイン帳をお持ちいただき披露された。



田淵氏との繋がりには蝶である。1951発行の科学朝日の記事などで早くから名前は知っていたが、知り合うきっかけは磐瀬太郎という蝶のことを教えてくれる方の存在だったという。1957年に昭和天皇もご覧になった日本昆虫学会創立40周年記念「世界の昆虫展」に、田淵氏は生態写真と写生画（蝶の細密画）を出品されたが、久保氏はその会場で下働きもされたそうである。映像では田淵氏が精魂かたむけた本づくりを紹介。単行本は36冊を数えるが、その3番目「ヒメギフチョウ」（1957年）6番目「高山蝶」（1959年、この本はカラー写真を張り付けるパートカラーという作り）や、8、35番目の「アシナガバチの生態」などが紹介された。因みに田淵氏が注目を浴びることになった「山岳写真傑作集」（アサヒカメラ臨時増刊）は1951年発行である。これらの蝶などの写真集には昆虫学会の重鎮が序文を書いており、学術的に高く評価されていたことが分かる。一方で田淵氏は蝶に「ハイマツ仙人」や「山の娘」などのニックネームをつける一面もあった。

詩情豊かな山の三部作を上梓した後、雪形の収集・研究に力を注ぐことになってゆくが、そこで久保氏が全国の蝶の仲間たちに声をかけ、今回の映像を作成いただいた青森の室谷洋司を知ることになり、最終的に集大成「山の紋章・雪形」（1981年）が出来上がる。

田淵氏は66歳の時に（1971年）北海道の高山蝶の生態解明に通い始める。このうち、白雲岳石室に泊まった調査の折は久保氏も同行しており、絨毯のごみを探すように這いつくばってカラフトルリシジミの観察をする田淵氏の姿を見ていたそうである。田淵氏に熱い紅茶をご馳走になったことをよく覚えているとのことだった。

また田淵氏は山小屋の看板や豊科公民館の緞帳の原画なども手掛けている。上高地の西糸屋には蝶の観察でよく泊まっていたということで、開業50周年の時に西糸屋のロゴを作成している。（今も使われているロゴである一会報「山」の裏表紙に出ている広告のロゴ）

こうした多彩な田淵氏であるが、いつも自著の巻頭では、奥様の日出子さんへの感謝の言葉や、自然・ふるさとの山に対する気持ちを表していた。

さらに「山の季節」という詞も作られているが、これには作曲家、中原健二氏が曲をつけさせてくださいと頼み込んだそうで、田淵氏も了承され、合唱組曲が作られている。

久保氏のお話が一段落して休憩の後、この曲をCDプレーヤーで聴いていただいた。全部は長いので初めの三曲を流し、最後の「季節の置手紙」（田淵ご夫妻にとっては想いの詰まった曲）へジャンプしようとする中、近藤緑さんから「山頂の朝」も聞かせてと要望があり、追加で2曲を聴くことに。この曲のバックグラウンドの映像についても、室谷氏が編集してくださった。緑爽会の講演会では珍しく、音楽を聴いていただくひと時となった。その後いくつか質疑応答があり、記念写真を撮って閉会となった。

※当日資料請求は荒井まで（荒井記、写真：小泉義彦）

## 2020年度緑爽会総会報告

すでにお知らせの通り今年度の総会は、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の発出もあり、郵送・メールにより議案書をお送りする形を以って開催に替えました。

4月25日に松本会員から質問・提案がなされましたが、編集・発行スケジュール上、間に合わせる事ができず、別紙での回答となりましたこと、ご了承のほどお願いいたします。

なお、議案書では田邊会員が退会となっていますが、その後復活されましたことをご報告します。

**会員近況：**皆様からの近況をまとめました。早々に回答をいただいた方もあり、書かれた期間が長期間

に亘っている点、お含み願います。またスペースの関係で字が小さくなり申し訳ありません。

田邊 壽 私の住む福生市は唯一コロナ感染者ゼロですので、もう暫く窓からの丹沢・富士山・奥多摩の山と遊びます。(携帯番号が次のように変わりました。090-3334-7909)

山本良子 長〜い冬眠?からやっと覚醒したのに、又々…何とも仕方ありませんね。気をつけてこの期をのり切りたいです。久しぶりに皆様にお会い出来るのを楽しみにしております。会報嬉しく拝見しています。有難うございます。

梨羽時春 色々お世話になります。私は腰痛で山行は出来ませんが、今後ともよろしく。

松本恒廣 緑爽会は1/4世紀、25年目。小生もあと2〜3年で永年会員のハズ。もうしばらくは頑張るつもり。なんといいっても関塚さん(10年先輩)がお元気なのだから。

福田光子 この冬は異常な温かさでした。市街での雪は極端に少なく、冬の日課の朝の雪寄せもなく、運動不足を嘆き、どか雪の冬の日、ピリッと冷たい寒さが懐かしく何とも言えない不安におそわれる日々でした。その不安は早々とんでもないコロナウィルスの出現で現れた。今頃になったら少しは終息に向かい、総会の頃には東京も安心して歩けるかと期待していたのですが残念です。あまりにも早い花の季節にとまどいながら外歩きで鋭気を養っております。

関塚貞亨 95歳で心臓に病いを抱えているためコロナ騒ぎで東京まで出かける勇気が出ません。皆様にお会いするのは楽しみのひとつでしたので残念です。2月に家を取り壊し、建て直すため三ツ沢下町10-9高野邸102号のアパートに移転しました。(名簿住所で郵便は転送されます)電話は変わりません。

吉田理一 本年度も新潟県立塩沢商工高校に講師として勤務しています。

里見清子 標高を落としても元気に山歩き続けています。皆様とご一緒に歩く機会を得たいと思います。総会欠席お許しください。お集まりの皆様によろしくお伝えください。

渡部温子 コロナウィルスで、2月から4月にかけて屋外屋内に関わらず計画がバタバタと中止になって、予定表は空欄に。ならば本でもと整理し始めたものの、つい読んだり写真に見入ったりでなかなか進まない。広げた『山岳』は46年47年からの年代物で、大分読み込んだらしく表紙が裂けたり、糸が切れているので修理を思い立った。口うるさい妹が『山岳』に対しては黙認、歴史でしょ(書)の嬉しい返事をくれた本だったし、「ヒマラヤ登山記録集成」の編纂で一緒にした馬場勝嘉さんからの形見だから大切にしている

川嶋新太郎 令和2年正月以来(老齢)体力ガクンと落ち、両足とも膝の弱さにはまっています。コロナには負けませんよ!

高辻謙輔 今年くらいは出席しなくてはと思いつつも、諸般の情勢から欠席とさせていただきます。

平野紀子 先日の会(講演会)、大変いい会を有難うございました。緑さんにもお会い出来て嬉しく思いました。一度安曇野へ行きたいと思っています。

- 森 武昭 後期高齢者になりましたが、日々トレーニングを欠かさず年令相応の山登りを楽しんでいます。
- 鳥橋祥子 時々近くの山を楽しんでおります。新型コロナウイルス、はやく収まってほしいです。
- 大島洋子 総会中止残念です。晴れた日には散歩へ行きます。ヒルサイドテラスの近くにジャカランダの木があります。6月が楽しみです。
- 島田 稔 春全開の季節なのに高尾も井の頭もボランティアの活動中止で年寄り在家中でひっそりとして居ります。五輪も延期となり、満88歳の年は憂鬱な年となりそうです。脚か頭か、はたまた呼吸器系か、おだやかならぬ気がしてきて着着きません。昔登りたくて登れなかった山々やこれからでも何とか歩きたい里山の地図など毎日眺めて居ります。今後ともよろしくお願い申し上げます。
- 長沢 洋 2月半ばに下山中骨折。結局手術して治すことになりました。4月には歩けるようになればいいのですが…。コロナ騒ぎも早く沈静してほしいものです。(編集者注：もう歩いています！)
- 間瀬 泉 そろそろ近くの低山の春の妖精たちに会いに行こうと思っています。会報楽しみにしております。
- 富澤克禮 コロナウイルスの影響で緑爽会の総会もどうなることやらと心配しましたが、幹事の皆さんと相談しながら進めてきました。このような形で何とか総会資料を皆様のお手元に届けることが出来ました。われわれ幹事の各自が、分担した作業を責任もって遂行しました。まさに、ワンチームになりました。今は、ホッとした安心感とチョットした達成感を味わっております。今日4月10日は、運動不足とストレス解消のため、電車に乗るのは怖いので、車で高尾山に行ってきました。
- 山川陽一 さがみこファーム農園立ち上げに没頭しています。すでにソーラーシェアリングの設備の建設、ブルーベリー苗の植えつけも終わりました。津久井三ツ木から1時間程歩いた道志川沿いのいい場所です。コロナ騒ぎが収束したら一度みんなで行きませんか？
- 夏原寿一 すべての予定がキャンセルになって巣ごもり状態。部屋を片付けたり、本を読んだり、モノラルのレコードを聴いたり、たまには散歩に出かけたり・・・、これもまた良し、です。
- 瀬戸英隆 85歳2か月を過ぎ、昨日迄のような元気がだんだん失せて来ました。が、連続登山だけは少なくとも本年は続けたいと思っています。
- 田井具世 2月にひいた風邪が長引き、今もって体調不良。少し大人しくしていようと思っておりますのでよろしく願い致します。ご盛会をお祈り申し上げます。
- 鎌倉淑子 1年前にスキーをやめました。丁度靴がこわれたため。
- 渡邊貞信 この秋に計画中の「岡野金次郎評伝」出版に関して、金次郎の妻、岡野トヨ関連の家系調査を金次郎の孫である岡野眞氏と協力してここ数ヶ月調査してきましたがようやく一段落しました。1700年代からつづく先祖代々の家系を小田原郷土文化館、小田原市役所戸籍係はじめ横浜、目黒、渋谷、世田谷の各市役所戸籍係を訪ねて追跡調査を重ねてルーツを探る日々でした。そこには新しい発見や驚きがあり、様々な事実を知り何か人生が豊かになった気がします。
- 深田森太郎 ご無沙汰致しております。総会中止残念ですが、この状況ではやむを得ないと存じます。今年の各地の山開きはどのようなのでしょうか。
- 小泉義彦 コロナ収束して皆さんとお会いできる日を待っています。
- 西谷隆亘/可江 平素はお世話になりまして有難うございます。コロナウイルス対応で関係する会・催事が全て延期・中止となり、目下、天気の良い日は二人で多摩川堤の桜を愛でながら、いささかのウォーキングを楽しんでいます。“桜ばな いのち一ばいに 咲くからに 生命をかけて わが眺めたり一かの子”の心境で。何事も無く平凡に過ぎゆく日々の有難さをかみしめながら。

- 石塚嘉一 コロナ感染を怖れながら晴れの日には、庭の草花・野草の世話をし、野川のそばの公園を歩いて走って、雨の日や夜は山の古典を読み直しています。コロナ自粛が長引けば資料の整理、身の片づけ、本の棚おろしといろいろできると期待しています。山道具・ウェアの手入れもこれを機にできます。みなさまと元気でまたお会い出来ますように。
- 中村好至恵 係の皆さまお世話様でございます。その週末には既に早々と別件予定が入っていて出席できず申し訳ありません。※今年は八ヶ岳南麓日野春アルプ美術館で開く最後の個展が秋にあります。
- 荒井正人 山には行きづらく飲みにはもっと行きにくく蟄居状態で、いかに普段からよく出歩いていたかを思い知らされます。普段の生活を早く取り戻したいものです。
- 横関邦子 春の山を歩きたいと思っている矢先にコロナウィルスで出かけようと思っていた心がめげています。早々の収束を願っています。皆様もお元気で！
- 藤下美穂子 初めての経験の日々。いつもと違う日々。今は毎日を丁寧に過ごしたいと思っています。コロナウィルスが一日も早く収束してくれるように祈りながら。皆様と元気に会える日を楽しみに。色々な方々のエールにも励まされています。
- 小原茂延 喜寿を過ぎて、持病を考え登山は割愛するも“山を望む高原、森と溪”には足を向きたい。昨秋には上高地山研で元川夫妻と1時間ほど歓談し、来し方、行く先を伺った。翠黛の山、潺湲の水！
- 小林敏博 「感染爆発 重大局面」との都知事会見以降は山行を自粛、人の往来が少ない近所の道を探して日々散策をし、ここの街路樹はヤマボウシだったかなど、小さな発見を楽しんでいます。コロナ禍が早く収まって、また皆様とお会いできるのを願っています。

～～《寄稿/投稿》～～

## 山岳図書交換会と「山岳」戦後版

吉田 理一

日本山岳会図書委員会主催の山岳図書交換会は37回を数え盛況である。

1968(昭和43)年の第1回は、松方三郎氏の発案で「山岳図書交換即売会」として始まった。図書委員長は深田久弥氏であった。その後1989(平成元)年まで22年間毎年開催された。

会報「山」535号(平成2年1月号)には平井吉夫氏が次の文を寄せている。「ここ数年ほとんど顔触れの変わらぬ常連である。出品された本にもこれはというものが少なくなった。そろそろこの行事の在り方を検討する時期に来たようだ」。

1992(平成4)年、第23回で休会。

※後に、三好まき子図書委員長をはじめとする図書委員の方々のご尽力で何とか復活できないかと検討され2007(平成19)年3月に15年ぶりに第24回として復活された。(会場～山岳会集会室)

何回か申し込んだが当たったのはわずか数回であった。ブログに一体どのようなシステムになっているのかと書いたところ日本山岳会のN会員から「私のところにはきちんと送られてきている」との便りをいただいた。

私が初めて交換会会場に行ったのは第30回。2012(平成24)年の年次晚餐会に併せて開催された年である。(会場 品川プリンスホテル)殆どの図書が多数の申し込みがありなかなか当たらない事が理解できた。当日会場に行けない地方会員も公平に抽選に参加出来る方式が図書委員会により確立されていた。

山岳図書交換会で入手できた最大の貴重な図書はJAC元会長三田幸夫氏からの出品による「山

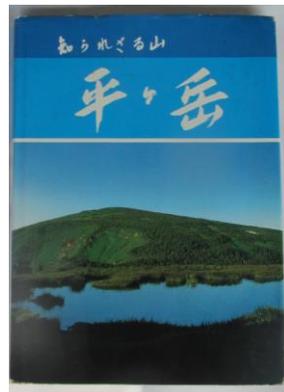
岳」戦後版揃(第43年1号〜)だった。個々の書籍の出品者名は公表されていないが、当時の南極観測船初代「宗谷」で観測隊に参加した隊員が、補給のため寄港したケープタウンより三田幸夫氏宛に送ったハガキが「山岳」から出てきて、出品者が三田幸夫氏と判明した。

※昭和58年 神田の古書店「悠久堂」の2階最奥に「山岳戦前版揃」が積まれていた。販売価格は50万円だった。当時33才の私の給料ではとても手が出なかった。

その後「山岳」戦前版はアテネ書房から2001年・2003年・2005年の3期にわたり復刻版が出版された。

会報No.427号・438号の山岳図書交換会の出品者名簿に私の名前が載っている、昭和55年の第13回と昭和56年の第14回である。

昭和55年8月、「平ヶ岳高山植物探索行」が中村純二氏を委員長とするJAC科学研究委員会主催で実施された。私が初めて登った平ヶ岳であり、日本山岳会の行事に初めて参加した記念すべきイベントであった。百名山登山ブームが起きる前で、知られざる山であった。地元の理科の先生方が丹念に調査され、その成果を「知られざる山 平ヶ岳」と題して刊行された(昭和55年3月、北魚沼理科教育センター発行)。この書籍は山岳図書交換会に私が初めて出品した本であった。



## 「掃 苔」東京周辺大先達の墓参り

小原 茂延

掃苔そうたいという聞き慣れない言葉を初めて知って20年程になろうか。山の小雑誌である「新ハイキング」に当時の編集長が、尊敬し親しんだ先輩登山家の墓を仲間と参りに行ったようで、岩崎京二郎、春日俊吉などの名があった。今は死語に近い「掃苔」であるが、広辞苑によると、「墓石を掃く意、墓参り、特に盂蘭盆の墓参」とある。近頃、巷間で墓マイラーなどといった流行が見られるようだが、少し趣は異なると思っている。

掃苔を意識した初めては、青山墓地の国木田独歩の墓であった。登山をした人ではないが自然主義の先駆的作家で、ワーズワースなどにも傾倒していたことで知られる。墓石は新しくしたものか古さびていず、国木田哲夫と刻まれ、樹々の向こうに六本木ヒルズが聳えているのに違和感を覚えた。「山林に自由存す」などの独歩吟、「武蔵野」などの自然描写は、やがて山へと誘われるに至った私の自然観の原点である。

府中市浅間山公園にムサシノキスゲやキンランを観察に行った帰り、仲間と別れて隣地の多磨霊園に、木暮理太郎と田部重治の大先達の墓参をした。木暮理太郎の墓所には、日本山岳会建之の墓誌がある。共に山旅をよくした仲であるが、木暮は重治より11歳年長で帝大生同志というのに驚く。田部重治には「山と溪谷」(日本アルプスと秩父巡礼改題)がある。10代の私に山への開眼をなさしめた書であり、「わが山旅五十年」などを読めば、病弱だった幼年期から金沢の四高時代に師の林並木から山の手ほどきを受け、北アルプスの探検時代、木暮とガイドレスで槍から剣を初縦走した壮挙は登山史に残る。

近頃に至って、掃苔も数を増し、6月に近代登山発祥の陰の功労者で忘れることのできない岡野金次郎翁を保土谷遍照寺に参り、戒名「岳祖金翁居士」を確認できた。次いで7月山岳会創立の立役者である小島烏水を文京区春日の常泉院に詣で、納骨堂で櫛(しきみ)を供え線香を上げてお参りを果たした。戒名は照光院寿岳久道居士。さらに「日本風景論」を著し「登山の気風を興作すべし」と若者へ昂然と

語りかけた志賀重昂を下高井戸の宗源寺に初秋の風吹く頃に訪ね(岡崎市にもある由)、その啓蒙を慕った。

中村清太郎と武田久吉については中々墓所が分からなかったのであるが、三田に武田(日光にもある由)、麻布二ノ橋に中村の墓所を探し当て詣でることができた。中村家の墓石と垣は青緑にさびて、家業の浴衣問屋であった「なかせい(中清)」を思わせる名が彫られていた。同じく画家で登山もした大下藤次郎(みずゑ創刊者)は、雑司ヶ谷霊園に眠るが、墓石は芸術家らしく瀟洒な感じである。近傍に東条英機の大きな墓があり吃驚した。

小島烏水の志と、ウェストンの近代アルピニズム精神並びに技術を世界の山で示した榎有恒の墓は多磨霊園の一画を占め、父、武とその子ら、いずれも我が国の発展に大きく貢献した一統が眠っている。墓誌にカタカナ語も見えるグローバルな家系である。

総じて岳人は長寿であり、百寿を越えて10年になんなんとする時代である。勝手に名付けて108歳を「永寿」と呼んでは如何であろうか。

～～《予告など》～～

**5月山行**ですが、現下の状況に鑑み、中止といたします。

※なお、当計画は、状況を見る中で9月山行として実行したいと考えております。

**6月例会**：日時6月18日(木) 14時～16時 104号室

芳賀孝郎さんのお話「英国山岳会を中心にドイツ、フランス、スイス山岳会について」

出席連絡 6月16日までに夏原へ(申込制ではありませんが、資料準備のために参加人数を把握したいので)

\*芳賀孝郎会員：日本山岳会百周年当時の副会長、京大学士山岳会チョゴリザ登山隊に参加、英国山岳会、ポーランド山岳会、イタリア山岳博物館を訪問されるなど、長く海外の山岳会に目を向けてこられました。2016年には自伝『私のシュプールI』(挿絵は奥様・芳賀淳子JAC会員)を上梓—「私には二つの挫折があった、その二つの大きな挫折の時、運命的な人との出会いがあった…」など、座右に置きたい一書です。

7月例会：暑気払い・茶話会 日時7月18日(土) 13時～集会室

9月山行：高尾山八十八大師めぐり(5月の山行をスライド致します)

※上記予定も、今後の動向により、変更・延期・中止となることがあります。



**会費納入の件**：例年総会でも徴収させていただいていましたが、今年は全会員の皆様に、以下の口座へ新年度会費<1500円>を「振込」にて納入していただくようお願いいたします。

・ゆうちょ銀行からの振り込み 10000-18539041 「リョクソウカイ」

・他の金融機関からの振り込み 008-18539041 「リョクソウカイ」

―― 編集後記 ―――

新型コロナの猛威は収まる気配がありません。次頁に載せた、夏原さんが訳された AAC の会員あて警告？は、広大なアメリカでのこと。まして日本においては何をかいわんや、ですね。山笑う良い季節となりました。山行計画を立てられている方も多いと思いますが、ここは忍の一字です。ワンチームで臨みたいものです。

次号予告<6月25日発行の主な内容＝今後の状況により変更もあります>

6月例会報告 その他投稿・寄稿など

※近況をいただいたばかりですが、ぜひ皆様から、今の状況での思いや、テーマにこだわらず随想など、お寄せください。文章の長短は問いません。ご協力よろしくお願ひいたします。

## <緊急掲載>

### アメリカ山岳会の新型コロナウイルス対応

夏原 寿一

日本山岳会のホームページに、古野会長の「大都市圏の会員の皆さまへ」と題したコロナウイルスに関するメッセージが掲載されている。その最後に《…アメリカ山岳会のコロナウイルスの対応状況です。参考までにリンクします》とある。アメリカ山岳会(AAC)が、どのようにコロナウイルスに対応しているのか興味があったのでリンク先を開いてみると、文中に、30年ほど前に訪れたことのある「モアブ」という町が出ている。そんなこともあって和訳してみた。

\*訳文は、英語の勉強にとと思って石塚さんに見ていただいた。その折に石塚さんから「これを緑爽会の皆さんに紹介されても…」との勧めがあった。そこで、幹事の皆さんにこの原稿を送ると、荒井さんから「ぜひ、会報に…」との連絡をいただいた。というわけで、ここに載ることになった次第である。

2020. 3. 17

#### 会員の皆さん、コロナウイルスの感染拡大を抑える行動をしましょう

新型コロナウイルスのパンデミックは前例のないもので、私たちに大きな影響を与えています。私たちはこれから先々、ウイルスの感染拡大を抑えるためによく考えて行動しなければなりません。

私たちは、新型コロナウイルスが、地方の町や国立公園、登山口にある町に広がることを懸念しています。これら遠隔の地にある町は、医療施設へのアクセスが困難であり、また、お互いの結びつきの強い社会構造ということもあって、感染の拡大を起こしやすいのです。

いま、レクリエーションのための旅行を制限することによって、上述のような場所にあるビショップ、ファイエットビル、モアブ、スプリングデール、スレイドなどの町をできるだけ安全な状態に保ってください。もし、あなたがそれらの地域への旅行を計画している場合は、この緊急事態が収束するまで、その計画を延期してください。今は、西部の荒涼とした地域やお気に入りの国立公園に出掛けたりしている時ではありません。このような時期だからこそ、私たち一人一人にとってアウトドアライフは必要ではありますが、私たちは地元にとどまり、脆弱なコミュニティに影響を及ぼさないようにすることが大切なのです。

また、医療システムの崩壊を起こさないためにも、アウトドア活動を自粛することを検討してください。バックカントリーで事故を起こせば病院に大きな負担をかけ、集中治療室の人工呼吸器の不足をもたらす一因となります。常日ごろ心掛けてるように、安全に気を配り、無用なリスクを冒さないように気をつけてください。

最後に、CDC（アメリカ疾病管理予防センター）の手引に概説されている、自分や周りの人々をウイルスから護る方法についての指示に従ってください。私たちは、コミュニティのなかで最も弱い人々の立場に立って物事を決める必要があるのです。

私たち登山をするもの全員がいま、上述したような事柄に配慮した行動をすることによって、この事態の収束に向けての一助となり得ることを、AACは確信しています。

[訳者注]上述の町の所在州と近隣の自然豊かなところ:

- ビショップ** カリフォルニア州▶シエラネバダ山脈の東麓、米国第2の高峰ホイットニー(4,418m)、セコイア国立公園…セコイアの森
- ファイエットビル** ウェストバージニア州▶ニューリバー峡谷…ラフティング、カヤック、峡谷沿いの崖はロッククライミング向き
- モアブ** ユタ州▶アーチーズ国立公園…地殻の隆起と雨風の浸食で作られた砂岩のアーチが多数
- スプリングデール** ユタ州▶ザイオン国立公園…グランドキャニオンの小型版の峡谷
- スレイド** ケンタッキー州▶砂岩のアーチ、ロック・クライマーに人気のレッドリバー峡谷沿いのオーバーハングの多い崖